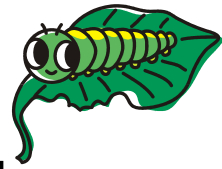




下大和田谷津田だより



2004年5月号

第51回「下大和田谷津田の 観察会とゴミ拾い」報告

4月4日 曇り/雨

斜面林のコブシとヤマザクラと一緒に咲いて出迎えてくれました。生憎の天気では花は太陽に向かってパーと開くこともなく遠慮したような開き方をしていました。虫も魚も殆ど姿を見せませんでした。それでも春、開花植物はぐっと多くなりました。いつもの観察ルートを巡っている間には何とか持った天気も昼食時には降り出しました。シートで林の中に屋根を張り濡れることもなく、熱いスープを味わいながらお弁当を食べました。午後は小降りになったところで斜面林の笹をかりました。林内ではシュランが咲いていました。フデリンドウも晴れていたなら開いたであろう蕾をつけていました。向の斜面林下の水路は新しく作られた排水溝の上で完全に土砂でつまり、水は流れを変えて放置田を通って中の水路に入っていました。排水溝の下は生活廃水でしょうか白濁した流れだけになっていました。100mlほど下では水はきれいに見えました。土水路の浄化力でしょうか。それにしても、生活廃水を浄化槽を通さずに雨水として流しているのであれば何とかしなくては・・・

開花植物：ハルジオン、セイヨウタンポポ、ノゲシ、オノノゲシ、オオイヌノフグリ、トキワハゼ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、カキドウシ、キュウリグサ、フデリンドウ（つぼみ）、タチツボスミレ、ツボスミレ、シロツメクサ、カラスノエンドウ、ゲンゲ、カタバミ、ヘビイチゴ、ナズナ、タネツケバナ、オオバタネツケバナ、クサノオウ、タガラシ、ミミナグサ、オランダミミナグサ、ノミノフスマ、コハコベ、スイバ、スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、シュラン、ヤマザクラ、アオキ、モミジイチゴ、ミツバアケビ、コブシ、ヤナギsp、スギナ（ツクシ） 以上38種。

昆虫：ヨコズナサシガメの幼虫のコロニーは先月と同じ状態であった。

鳥：キジ、コジュケイ、セグロセキレイ、モズ、ツグミ、ウグイス、アオジ、ハシブトガラス。

他：ニホンアカガエルのオタマジャクシ。イタチの足跡、ノウサギの糞。

（参加者：大人9人 報告：網代春男）

第34回谷津田プレーランド・プロジェクト(YPP)

みんなでわいわい田起こし

4月24日 晴れ

4年目を迎える米づくりの本格的な作業のスタートです。続いてきた汗ばむような陽気が一段落して、作業にはちょうどよい気温の天気恵まれて集まったのはなんと46人！作業中心のイベントとしてはこれまでで最高の人出のおかげで、田起こしはどんどん進みました。これまでどおり、起こしたのはコシヒカリを植える田んぼ。3畝強（100坪）の田は午前中に起こし終えました。今年はまだ放置していた田んぼも何とかしようとして草取りをしました。一面にぼうぼうと生えた草を取るの大変ですが、子どもたちも一緒になっての作業に笑顔が一杯で、3畝の草取りが全部終わりました。参加した皆さん、本当にお疲れ様でした。すっきり再生した田んぼの風景はとても気持ちがいいものです。作業の写真がちば・谷津田フォーラムのホームページに掲載されていますのでぜひご覧下さい（<http://yatsuda.2.pro.tok2.com/report.html>）。

作業に並行して、環境漫画家のつやまさんがスケッチ大会を開いてくれました。参加した子どもたちは真剣な顔つきで草花を観察しながらスケッチして、絵の具で色をつけました。できあがった作品は見事！じっくりと見ることの大切さを知りました。

（参加者：大人35人・小学生9人・乳幼児2人、報告：高山邦明）

下大和田季節のたより

4月3日 羽化したてのシオヤトンボを確認。例年になく早い記録。（田中正彦）

4月16日 4日の観察会では見られなかった生きもの：オオジシバリ、キランソウ、ナガミヒナゲシ、ムラサキケマン、ケキツネノボタン、クサイチゴ、サルトリイバラ、ツマキチョウ、キタテハ、ベニシジミ、スジグロシロチョウ、ミツボシツクカメムシ、シロヘリカメムシ、モモブトカミキリモドキ、ジョウカイボン的一种、アメンボ、キリウジガガンボ、ツマグロオオヨコバイ、オカモノアラガイ？、ヤマカガシ、ニホンアマガエル、エナガ、シジュウカラ、カケス。（網代春男）

4月18日 早朝の谷津で旅立ち前のアオジがあちこちでさえずる。カケスはいつものジェージュエーに加え、甘ったるい声を出していた。恋の歌？シュレーゲルアオガエルの卵塊を確認。（高山邦明）

4月24日 YPP参加者の越川さんがサシバを確認。

新緑から深緑へ。生きものたちがますます活発に動きはじめます。谷津田5月、田植えの終わった田んぼでは手足の生えたアカガエルが陸に上がり、オタマジャクシはシュレーゲルアオガエルが中心になります。シオカラトンボの飛び始め、ホトギスの飛来はいつでしょうか？目を離せない季節が続きます。

高山邦明